

病気療養中の児童生徒に対するICTを活用した学習保障や支援の在り方の実践



県立仁戸名特別支援学校教諭 あそう けんた 朝生 健太

1 はじめに

本校は、病気療養児の学習活動を支援する特別支援学校で、入院児童生徒が多く在籍している。そのため、全校行事などにおいて、従前からWeb会議システムを活用し、本校と複数の病院をつないで同時双方向型で行う教育（以下、遠隔教育とする）に取り組んでいる。

2 遠隔授業について

本校では、病気の治療や体調不良などの理由から、毎日の登校は難しいが、学習したいと強く願う児童生徒に学習の保障をするため、自宅や入院先の病院と学校をWeb会議システムをつないだ授業（以下、遠隔授業とする）を行っている。円滑に遠隔授業を開始するために、一人一人の病状を把握し、児童生徒や保護者に対し、体調不良や機器トラブル等の緊急時の対応方法などの説明や、使用機器の確認と準備支援を事前に行っている。

3 本校での取組

(1)撮影用のカメラとマイク

学校側のカメラは、単体のビデオカメラなどを接続し、より鮮明な映像で授業を配信できるようにしている。また、書画カメラを使用して教科書や教師の手元を写すなど、場面に応じた機材の使い分けを行っている。音に関しては、パソコンから離れた位置に立って授業を行う場合でも聞き取りやすい音声で配信できるように、マイクスピーカーを接続している。

(2)Web会議システムとクラウドサービス

インターネット上の共有ファイルを使用することで、児童生徒と教師の双方から同時にアクセスして書き込むことができるようにしている。共有画面でのやりとりが可視化され、児童生徒が学習の状況を確認しやすくなり、次の活動への移行が円滑になった。

(3)指導上の配慮や工夫

病気療養中には、治療により身体的な変化などが生じる場合があり、児童生徒の気持ちに配慮する必要がある。その場合、行事や授業では、映像を用いず、音声のみやカメラで文字を写すほか、チャットを活用して文字のみでも参加できるようにしている。また、チャットは文字が残り、メモをとる負担を軽減しつつ正確に内容を伝えることができるので、授業前などの連絡でも活用し、安心して授業に臨めるようにしている。

ICTを活用し、病室と学校をつなぐことは、日頃会うことができない友達と交流したり、病気療養児も周囲とのつながりを感じることができたりする貴重な機会となっている。

4 おわりに

病気療養児の学びを支えるためにも、遠隔教育の実施に当たっては、前籍校や保護者の理解、協力体制が重要である。学びたい気持ちや、治療中であっても人とつながりたいという思いに寄り添うことは、病気療養児の心理的な安定につながるのではないかと考える。今後は、さらに授業方法や評価の在り方、使用機器について検討を重ね、病気療養中の児童生徒へのICTを活用した支援に取り組んでいきたい。